

# 海外事情

## 獨逸モーター化の發展過程

獨逸の工場主カール・ベントの發明せる自動車の前身為特許動力車 (Patentmotorwagen) の一般的使用をマンハイム區裁判所が許可したのは一八八八年六月二日のことであつた。色褪せた唐草模様風の花文字で書かれたこの許可書が今では自動車誕生の證明書となつてゐる。併し乍ら、諸種の妨害や制限があつて、約十五年間以上は自動車工業の發展が阻止されたのである。若しかゝる事情がなかつたならば、ベント並に他にダイムラーが先鞭をつけたこの革命的工業に於いて、獨逸はアメリカに代つて世界市場の王座を占めることが出来たであらう。蓋し當時に於いて



は、之に要する材料及その他の條件は殆んど同一であつたからである。併し乍ら、獨逸のモーター化問題解決の任務はナチスに課されたのである。ナチス政權下のモーター化は四期に分たれて實行された。第一期は一九三三年三月十二日に於けるヒットラー總統の基本的演説、第二期は四箇年計畫發表に依り開始され、第三期は大衆車製作工場の起工式を以つて端緒と觀ることが出来る。現在は第四期にあるのであるが、之は自動車製作の合理化を目標とし、自動車總監の任命に依つて始まつたのである。

獨逸に於けるモーター化問題の解決は極めて不利なる條件の下で着手されたのである。失業者數は六百萬名を突破し自動車工業の生産高は極めて低いレベルに置かれてゐる

た。總統は自動車工業の重要産業なるを認めて、既に彼は政權獲得前特に關心を持てる自動車交通經濟の再建に着手した。總統のこの産業に於ける彼の意圖の實現には成功の確信があつたと言へる。即ち、フランスの自動車生産高は一九三二年に於いては獨逸の三倍の數字を示してゐたにも拘らず、僅か五年後の一九三七年には獨逸の生産高はフランスを遙かに凌駕したことも分る。

	獨逸	佛蘭西
1932年	53438	183856
1937年	328267	207430

一九三三年開催の自動車展覽會席上に於けるヒットラー總統の獅子吼は獨逸モーター化史上に於ける分岐點を意味してゐる。この演説に於いて總統は、大規模なる道路建設計畫即ち國營自動車専用道路の完成に初めて言及した。「自動車は道路建設を招來する。一國民の生活程度は過去に於ては鐵道の軒數に依つて測定したものであるが、將來に於ては自動車交通路の軒數を以つて測定しなければなら

なくなるであらう」と當時彼は主張した。

獨逸自動車工業の最も惠まれたる點は、總統自身が熱心なる自動車運轉手であり、老練なる實際家であることである。ヒットラーは政權獲得以來、六回に亘り自動車展覽會を開催し、その都度演説を行つて、自動車交通經濟にとりて重要な事項の指示及指導に努めた。スポーツ施設の促進も亦この中に織り込まれてゐる。ダイムラー・ベンツ自動車工場又自動車聯盟は全力を傾けて競走用新式自動車を製造した。國際的の各種自動車競走に際し、二十四回の優勝と三十五回の一等賞を獲得せるは、この方面に於ける努力の誇るべき結晶である。一九三七年及三八年の二年間に於けるドイツの自動車は、唯一回の例外を除き全部の競走大會に勝利を獲得し、之に依つて獨逸自動車の卓越性を全世界に對し證明することが出来た。

飛行機の發動機製作に於いても、同様に發達して成功を遂げた。總統は、一九三六年開催の自動車展覽會の演説に於いて次の如き言葉を以て自動車と航空機發動機との間の

密接なる關係を特に強調した。「自動車」の發達と、之に刺戟されたと云ふよりは寧ろ之に依つて初めて可能となつた飛行機の發明とは、鐵道敷設後に於ける人類の交通全般に、全く豫測し得ざる衝動を興へたものである。尙其の際に、重量一萬匁を有するデル・グローセ・デサウエル (der Grosse Dessauer) の高度記録七千二百四十二米、ハインケル飛行機の時速六百三十五浬、ツェペリン飛航船の古今未曾有と稱すべき長距離飛行の如き顯著なる實績は獨逸航空事業の世界的價値を示すものであると彼は絶叫した。

モーターは、比較的最近迄蒸氣機關及電氣のみの活動舞臺であつた領域に迄喰ひ込んだ。大型ディーゼルエンジン、鐵道の氣動車としても又一般汽船並に海軍殊に近代的高速船の推進機關としても優秀なることが確認された。

總統の樹立せるモーター化計畫の一つ一つは、次ぎ次ぎと實現されて行く。政權獲得以來既に總統が腦裡に描ける大衆車「百萬人の自動車」(Kraftwagen fuer Millionen) は一九三四年初めて不動の計畫として世に登場した。この

計畫に對する總統の根據は、五十有餘の大都市を持ち極度に工業化せる獨逸の交通需要は、アメリカ合衆國に劣るものではなく尠くとも同程度であると云ふ點にあつたのである。之と同時に明確なる前提は、販賣價値が、之を問題とする購買者層の購買力に適應すると云ふことであつた。總統は、苟も問題となり得る性質のものに就いては、彼の演説に於いて必ず觸れて行くのである。輸出問題に關しては次の如く述べてゐる。「抑々、效果的輸出は、大工場の國內販賣數が保證されて、價格の點に於いて世界市場に打つて出て競争し得る可能性が興へられる程の生産數量に達した時に行はれるものである」。

自動車輸出は一九三三年以來五倍以上に達し、その輸出高(オートバイを除く)は左の如くである。

年	1932	1933	1934	1935	1936	1937
車 輛 數	11021	13339	13236	23396	36115	68506
單位百萬马克	27.5	28,385	29,161	48,750	73,863	135,449

この輸出増加は、自動車工業の生産能力に於いて從來不

可能と思はれた高さに達したもので、之はナチス政府の目標確立と指導的監督の賜物と云ふことが出来る。

一九三三年以來凡ゆる經濟部門に於いて行はれた急劇なる増産運動の結果、資材の缺乏を來たしたことは云ふ迄もない。かゝる情勢下にあつては、懷疑論の擡頭を肯定したり、或ひは現狀に消極的態度を執るよりは寧ろ積極的に之が對策を講ずることが賢明である。茲に於いて、ヒツトラ―總統は一九三六年の國會に於いて、最も必要なる原料の供給に關し獨逸が獨立し得る四箇年計畫を宣言して、その創意を發表した。と云ふのは、從來通りに外國の原料を使用するとせば諸外國のクレヂツトに依存せざる限りは不可能であつたからである。従つて商品生産を將來に於いて減少せしめず其の増加を計らんとすれば、原料に對する遞増的需要を満足せしむべき新たな手段方法を講じなければならなかつた。かくして、絶對的に必要なる鋼鐵配給と輸入材料に對する代用材料たる新規材料の調達が重要な位置を占めて來た。數限りない化學製品（この中には合成護

謨ブリーナー——Buna——並に工業用油及自動車交通經濟にとつて重要な發動機燃料が含まれる）が基礎材料であつて、獨逸に無盡藏と言はれる石炭はさて置き、自動車にとつては純獨逸製輕金屬たるマグネシウム、エレクトロン及び其の合金屬が決定的役割を演ずる。之等の輕金屬は用途の多方面に亘れること並びに部分的に優秀なる性質の爲に、鉛、銅、眞鍮、鐵、亜鉛時には鋼鐵の如き重金屬をも驅逐するに適してゐる。特に重量輕減を必要とする場合に於いて然りである。かゝる現象は殊に競走用自動車製作に際して見られ、窮屈なる競走條件に適應するには、之等の輕金屬は極めて重要な役割を演ずるものである。エレクトロン合金、又はマグネシウム合金は給油ポンプ・ケース、ギヤケースの蓋、クランク・ケース製造に既に定評ある金屬である。尙、この他に自動車の車體製作に使用される裝飾品等の如き多くの部分品もこの種の金屬で製作されてゐる。眞鍮、青銅、洋銀等の銅合金の輸入金屬は、氣化器、扉の把手、蝶番、冷却装置の覆及装具の製作に用ひられず、

この場合にも軽金屬が優位を占める。自動車製作にとり鋼鐵及鐵の需要は他の材料に比し特に大であつて、實に自動車重量の八割迄は此の種金屬から成立つてゐる。以上の事實より、鐵の供給が自動車工業にとり如何に重且つ大であるかは自ら明かである。

四箇年計畫は、自動車交通經濟の原料需要、及同時に自動車交通經濟の生産を確保した結果、公的需要並に國防の強度需要にも拘らず販路は著しく擴大された。

次の數字は自動車工業の躍進振りを物語るものである。

年次	1932	1933	1934	1935	1936	1937
各種自動車	53438	105667	175392	249092	303868	328267
オート三輪車	10939	12939	11697	12029	14316	14237
オートバン	36242	40534	88312	117651	145916	149423
生産費總額(單 位百萬マルク)	296.0	480.4	807.4	1163.1	1431.0	1520.0
自動車工業に 於ける營業員	33101	55000	80000	101000	112000	12000

右の表に據れば實に驚異的發展を遂げつゝあることが明白であるが、その頂點に達するには尙相當の時日を要すると言はねばならない。モーター化は、大衆車が何百萬と獨

逸の道路一面に洪水の如く走る時に發展の新段階に達したものである。大衆車製作工場、即ち世界最大にして且つ近代的自動車工場の完成は着々實現に近づきつゝある。この工場が全能力を發揮する場合には、年産額約五十萬車輛のK・D・F車の製作を見ることであらう。K・D・F車は、その重量を軽減し而して燃料消費を節約すれば四箇年計畫の目標に特に合致するものであり、之は尨大なる生産數に上る自動車製作に於いて極めて重要な事項である。

軍隊のモーター化は、最短期間内に自動車工業の最高度の能率を必要とした。農業方面の需要も増産戰の旗印の下に、同じく急速に増大し、獨逸國內の活潑なる農業は多數の牽引車を要求してゐる。その生産高は次の如くである。

年次	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938(見積)
車輛數	1593	3168	4968	8494	12864	16380	23500

豫想外の經濟的飛躍は到る方面に著しき勞働力不足を招來したので、従つてモーターは以前に増して重要視されるに至つた。自動車現在數は一九三三年の約百六十萬車輛か

ら一九三九年の約三百三十六萬車輛に増加してゐる。

モーター化の最後の段階たる第四期は自動車總監の任命に依つて始まる。従來行はれてゐた研究及努力は總監の責任に就いて一の中心部に統轄されることになつたのである。之等の研究努力は、生産並に生産對策の促進、組織の改善、様式の制限、廣範圍の規格統一、最後に獨逸自動車組織の統制と目標設定に迄擴大されることになつてゐる。

之等總べての任務は、獨逸のモーター化の將來の發展に對し決定的意義を有する。一九三七年開催の自動車展覽會席上の演説に於いて總統が將來の計畫事業完成の爲の切實なる要求として主張せる様式の制限は、一九三八年既に工業の特殊共同作業團としての自動車工業經濟團體に依り着手されて其の成功を納めることが出來た。様式の制限化は、軍事上必要である許りでなく、輸出に於いても重要であり、國內市場に於いては生産の合理化により生産費の低下と重要部分品生産過程の單純化を招來するであらう。更に又様式の制限から、部分品の在庫數量の減少並に統一化

が行はれるに至り、従來は、様式の多數複雑なる爲に多額の資本を要する在庫數量を豊富に持たなければならなかつた海外販賣店の活動が容易になることであらう。一販賣店に於いて、八十種もの部分品目録が使用されてゐると云ふ事實が従來の状態を最も雄辯に説明してゐる。

以上の計畫の實行と共に、一九三九年開催の自動車展覽會に於いて總統が自動車工業に對して述べたる次の事が實現される段取になつてゐる。「將來益々様式の統一と單純化を計ることは既存生産に對しても重要であることを確信する。生産過程の單純化により、追隨的新生産に使用し得る勞働力並に材料の節約を行ふことは全獨逸經濟にとつて決定的任務である。四箇年計畫の宣言以來、獨逸國民の不眠不休の努力は續き、更に獨逸經濟獨立の爲の闘争は行はれてゐる。ヒツトラー總統は獨逸國民に進むべき道を示し、獨逸再興の任務を負はされたる彼の不撓不屈な鐵の如き意志は、四箇年計畫大事業を導き、其の實現に全獨逸國民は欣然として參加してゐる現狀である。(M・T生)